

# 安全確保領域における論点について（案）

PM2.5等の大気汚染に注目が集まるとともに、水銀に関する水俣条約など国際的な取組が進展しているため、研究開発の面でも国際的な貢献を視野に入れた取組が求められる。また、平常時だけでなく、東日本大震災からの復興や、災害時・事故時の化学物質・有害物質の排出などへの対応についても視野に入れるべきである。

## 2050年頃を想定した長期的な社会像について

主に「低炭素・資源循環・自然共生政策の統合的アプローチによる社会の構築」（平成26年7月中環審意見具申）における「ビジョン」を踏襲することとするが、本領域ではそれに加えて以下の点も視野に入れるべきである。

- ・顕在・潜在リスクを含めた生命環境への脅威を包括的に防止し、活力ある社会が実現されている。
- ・リスクの可視化や市民の合意形成に基づく安心が確保されている。
- ・安全に関する世界的な状況把握と国際的管理の枠組が構築と、それと連携した国内施策が達成されている。
- ・国内だけでなく新興国等における大気・水・土壌等の問題の解決に我が国の技術・ノウハウが貢献している。

## 2025～2030年頃を想定した中期的な社会像について

化学物質が人の健康と環境にもたらす著しい悪影響に対して、予防的取組方法に留意して科学的なリスク評価が実施されている。

化学物質など生命環境への様々な脅威が人の健康や生態系に与えるリスクについて包括的に把握・管理が行われている。

多様な機能を持つ物質、革新的な機能物質に対する確に安全を確保するための科学的知見が蓄積している。

革新的な環境監視技術が確立され、地域及び全球的な監視と情報の共有が実現している。

国内だけでなく新興国における大気・水・土壌等の環境管理技術・ノウハウが利用されつつある。

## 重点課題案 「化学物質等の包括的なリスク評価・管理の推進に係る研究」

ポイント：小児等の脆弱性を考慮したリスク評価・管理の推進、多種・新規化学物質の網羅的な環境把握と予測・評価・管理、生体高次機能への影響の解明、生態系の視点に基づく生態毒性の評価、水銀・POPsなど全球的な課題への対応、災害時・事故時の対応 など

## 重点課題案 「大気・水・土壌等の環境管理・計測技術の高度化・低コスト化」

ポイント：健全な水循環を確保するための流域・陸域を含む水域全体の評価・管理、PM2.5・光化学オキシダント等のリスク評価・対策、越境大気汚染の計測・分析・対策、環境管理技術の国際展開に向けた研究開発 など

備考：一般環境中に放出された放射性物質への対応、災害・事故等による工場等からの有害物質の排出などについても視野に入れるべき。化学物質分野・資源循環領域と共通の課題といえる。